

平成26年6月2日 10:00

磐田市役所西庁舎 302・303 会議室

出席者

委員：青島美子、大石留美、小栗 華、小野泰弘、三枝幸文、杉田友司、
鈴木正典、高木昭三、鳥居 勤、永井聡子、橋本安弘、村上勇夫

事務局：竹森企画部長、袴田秘書政策課長、清水市民部長
文化・体育施設等整備室 金子、伊藤、村井
文化振興課 落合課長、河合、新貝

1 委嘱状交付

2 市長あいさつ

3 自己紹介

4 委員長・副委員長の選任

小野委員より、委員長に静岡産業大学三枝学長、副委員長に静岡芸術大学永井先生という提案があり、全委員から承認される。

5 議事 進行：三枝委員長

① 委員会の目的と所掌事項・・・金子室長より説明

② 文化施設の現状・・・金子室長より説明

③ 意見交換

(委員)

永井先生は副委員長ということで発言を遠慮されるということではなく、進んでご意見を述べていただきたい。

空調や給排水設備等、露出配管にするとか交換をしやすいとかメンテをしやすいとか、文化施設等を設計するときに配慮しているというケースはあるか。

(文化振興課長)

最近の施設で、そういったものに対する特別な配慮があるかってことは、今わからないが、老朽化施設は大規模改修はできないというかわりに、目の前にある軽微な故障を修繕を繰り返しながら何とかしのいでいる施設が多いのではないかと感じている。全国的にはそういう傾向にあると思う。

(委員)

長寿命化という話もでていて、当然空調設備は壊れるものなので、いろいろなところまでいじって改修しないですむ方法について市の方でも調べてほし

い。

(委員)

文化施設といえども確定申告や選挙関係で使ったり、地域力を上げていくための拠点として開放したりしている。このことから、文化施設の在り方にも突っ込んでいかななくてはならない。ランニングコストの面では、特に空調等を含めて、そういう問題が起きるのはわかりきっているので、これからの対応としてしっかりしていかななくてはいけない。

(委員)

市民会館の利用について、利用人数ごとの回数は、計画の段階で500人を対象にしているとか300人を対象にしているとかということなのか、それとも結果として来たお客さんの人数なのか。

(文化・体育施設等整備室長)

結果として何人使ったというものである。

(文化振興課長)

主催者側としては1500人集めたいというコンサートを企画したが、結果的にそれが800人というように1000人を切ってしまったものもたくさんある。

(委員)

説明の中で駐車場の話もあったが、会場の使用に関して制約を受けているのか。実際にはどの程度困っているのか。

(文化振興課長)

実態は非常に不便をきたしているけれども、実情としては、駐車場が足りないということを踏まえた中で、対策を打って行っている。

(委員)

イベントの運営に支障をきたしているということではないか。

(文化振興課長)

主催者側は、それでやっているのだが、利用者側に対しては、少し遠くからきていただくということで不便をかけている。

(委員)

文化施設とは非常に広い概念になるのだが、ホールに限定して議論しろということでもいいのか。いさだホールについても福田公民館のホールについても社会教育施設、公民館条例から外してもっと広い貸館にしていくということを前提で議論していくのか。

(文化・体育施設等整備室長)

この会に関しては、文化施設のこの5つの施設、4つのホールに関して議論をしていくということでお願いします。

(市民部長)

あくまでもホール的な施設についてご検討いただく。展示施設等については、他にもあるが、それは今回はおいて考えさせていただく。竜洋のなぎの木会館と福田公民館の公民館としての機能については、地元としてどうあるべきか議論は並行して進めていく。ただし、竜洋のなぎの木会館については、地域とのコミュ

ニティを外した中で考えていくという方向で事務局としては抑えている。福田のホールについては、これから地元と話していく。

(委員)

要するに社会教育法の中に入れるか出すのかということは、これから地元と相談していくということか。

(市民部長)

基本的には、今社会教育法から外す方向で考えている。使い勝手のいいように考えていきたい。

(委員)

できれば、この機会に地盤のいいところで、できるだけ面積が取れるところに移転して、きちんとしたものを駐車場も完備できるような所に建築しもっと長く使用できるものを作るべきだと思う。

(委員)

磐田に引っ越してきてから7年しか経っていないけど、今までに3回くらいしか利用したことがない。行ったとき古いなと思う部分はあったけれど、ないとなると不便である。

(委員)

小学生のころは、よく足を運んでいたもので、思い入れはあるが、近年はほぼ足を運ばないような状況になっていて、どんなふうに使われているのかなと気になっていた。ボランティアの仲間と話したが、ほとんどのメンバーがあまり行ったことがないというのが若者たちの声だった。やはり、人が集まりやすい施設になることが一番である。

(委員)

貸館施設としてのホールだけ作っていくという意味はあまりない。文化を発信できる拠点施設であってほしい。色々な世代を超えて、そこがそういうような拠点になるような施設であってほしい。展示施設という部分も文化振興センターは担っているので、そういう点でも議論として必要。こういうハードができたときに、ソフト的にも組織ができてくるとより有効になってくる。

(委員)

市として文化施設の施策をどのようにもっているのか、教えてほしいし、提供してほしい。二つ目は、磐田市の中であって、どういう住みやすさを作っていくかということにこの文化というものはどういう役割を持つかという角度でも議論しなくてはいけない。3つ目は、高齢化を踏まえた山積している課題を今回の政策の中にとり入れていくものがあるのかなのかという問題もある。あとは、市民ニーズをあるいは市民の考え方をどういう風に取り上げていくか見切れるか。これも大事なことで、とにかく行政の文化施策をしっかりと示していただきたい。そのうえで議論していくことが大事である。

(委員)

施設の目的をきちんと市が主導して作っていきつつも、市民の方のニーズをきちんと把握しながら、そちらに流されることなく主導してやっていければと

思う。それには、事務局の方でも、他の市の施設の例だとかを研究しながら、磐田市民が誇れる施設が、今のままいったらどれくらい将来コストがかかってくるのか、新しいものを建てた方がやっぱり安いのかということも議論しながら、やっていけばいい。また、多額のお金をかけるので、防災機能も併せ持つような施設であったりだとか、いろいろな視点から考えていった方がいい。磐田市民として誇れる施設にしていったって、皆さんの使い勝手がいいものであってほしい。

(委員)

この施設そのものが多目的でないと活用できない。舞台芸術とか音楽とかを施設を造ってやっていくとなると、相当立派なものでないといけない。浜松からもお客さんが来るような施設になるよう期待している。一市三町一村が合併して、その意識がまだ残っている。こういうものを一つにするためにも、中心になるようなもの、立派なもの、皆さんが納得するものを造っていくべき。どういう人を対象にして、どういう形で造るのか、そういうことが大事。価値のあるもの、音楽的に高いものを市民の皆さんに聞いてもらって観てもらうのが一番大事な目的であると思う。

(委員)

磐田に新しい駅ができるという話があるなかで、駅の周辺に大きな施設ができるといい。そういうことによって市外からも人を呼び込むことができるのではないか。この会議の場に、文化協会の方がいないというのは何か意図があるのか。いちばん使われる方の意見を聞いた方がいいのではないか。

(企画部長)

文化協会の皆さんは当然のことながら老朽化すればこれから欲しいという方向に基本的になってしまう。文化振興課の方でその辺の意見を吸い取り、参考にする。ここでは、もう少し大局的な立場に立って、いろいろなご意見を伺いたい。文化というのは、どうしてもある意味では置き去りにされがちな部分がある。磐田というのは、国分寺ができて現在に至って、これからも未来まで永劫に続くとなるとやっぱり切っては切れない部分だし、市民の誇りとか、愛着心とかという問題にもつながってくる。その辺を皆さんからご意見いただいて、うちの方もまとめたいということで、今回は敢えて永井先生以外は、ここにはお呼びしなかった。

(委員)

文化協会の総会で若い人たちに磐田の文化をもっと広げていきたいという話を聞いた。意見を吸い上げ、この場で伝えていただきたい。

(委員)

市民会館で年間どういう事業が何回開催されているのか。あの規模でなければならぬ事業がどれくらいあったのかなということがもう少し明確にわかるといい。それに伴って、施設の利用目的を明確にする必要がある。多目的よりも目的をしっかりと定めた施設がほしい。一般の市民の中にも、あんなに大きなのじゃなくもっと小規模、中規模のものがほしいという意見があるのも事実。

今回新しい文化施設を造るのにあたって、磐田市で文化活動している方々の象徴、集大成を発表できるような場所ならいい。

(委員)

皆さんの意見を聞いている中で、共通している部分は、こういう議論の場合には必ず小手先の話より長期的なビジョンがあって、議論すべきではないかということだと思う。

(副委員長)

もし皆さんが目的を明確にする方がいいというのであれば、個性的なホールを造るチャンス。ここを乗り切ったら、静岡市以上の個性的なものになり、浜松や他からも人が入ってくる。多目的がいいと言われがちなものだけれど、舞台の設備も高度になっているので、各種の演目をいい条件で聞いたり観たりすることはできるような多機能な多目的ホールというのはできている。愛知でも、豊橋などは個性を出そうということで演劇ホールを主とした専門ホールを造って、そこにプロデューサーをおくというようなことを売りにしてやっている。演劇なのでダンスも可能、コラボレーションするということも可能なので、そういった小さな町が個性のあるホールを造ることによって拠点性を強調し、実際にそれが実現している。ということを見ると今がチャンスだと思う。

(委員)

文化施設は地域の文化芸術を育成するとか地域の才能を発掘していく場所、そして情報を発信していく場所、そのようにとらえないと、地域の文化の発展には寄与しない。地域のこれからを見据えた形で、こういった文化施設の在り方を考えていくことが必要。市が文化芸術に対してどのような考え方を持っているかということのを伺う必要がある。

次回以降の日程確認にて会議終了